

# コトバカっ!



コトバカ  
言葉家……言葉を操る専門家。言葉にバカに詳しい人。言葉にバカみたいにこだわる人。

コトのほかバカ。コトによるとバカ。コピーライターの俗称。

上から読んでも相川藍、下から読んでも相川藍。コトバカの相川藍が言葉についてコトバカルっ!

## ロマンチック・ネーミング

女の子の夢をそのまま形にしたようなウエディングドレスのデザイナー「ハニーちゃん」をテレビで見た。ドレスも本人も可愛かったが、ハニーが本名と知り驚く。彼女の名前は伊藤羽仁衣(はにい)。名は体を表すというのは本当だ。ちなみに、私の友人にも「エリザベス」と呼ばれている美女がいる。本名はハツコだが、ロマンチックな愛称は、発音するたびに気持ち上がる。「ねえエリザベス、お茶しようよ」なんてじゃれてくれるだけで若草物語の世界。やめられません。

ロマンチックな社名にも心惹かれる。カルビーの由来がカルシウム+ピタミンBというのも面白いけど、湖池屋のエピソードにはじんときた。長野県出身の創業者、小池さんは、諏訪湖のように会社を大きく成長させたくて、小池の「小」の字を「湖」に変えたんだって! しかし究極はロケットか。「若きウエルテルの悩み」のヒロイン、シャルロットにちなんで名づけられた社名と知ってからは、ロケットリアでハンバーガーにかぶりついてもアンニユイな気分になってしまう。

長い名前も魅力的だ。ある時「オフィチーナ・プロフォーモ・ファルマチ エウティカ・ディ・サンタ・マリア・ノウエツ」というカタカナの看板を目にした私は、媚薬のような妖しい言葉の羅列に倒れそうになったが、フィレンツェに現存する最古の薬局の日本支店とわかり、深く納得した。そっけない略称が、逆に妄想をかきたてる場合もある。東京ミッドタウンの入り口のカフェ「A97」なんて、秘密クラブの暗唱番号みたいだもん。この間、エリザベスとここでお茶しながら「エーキューナナイチってさあ、経営者の愛人が奈々ちゃんんで『永久にナナが一番』って意味だったりしてえ」と私がへらへらしていると、エリザベスは真顔で言った。「知らなかったの? A97は東京ミッドタウンの住所。赤坂97-1だよ」うわ、そっだったのか。さすがエリザベス。彼女の素顔はクールで現実的な会計士さんです。

相川藍(言葉家)

丸の内文学賞(大賞)、朝日広告賞(最高賞)、インターネット書評コンテスト(最優秀賞)受賞。早稲田大学第一文学部卒。コピーライター。